

で、その趣旨は以下のとおりである。

- ① 本県の児童生徒の国語、算数・数学、英語の学力到達状況を明らかにすること。
- ② 前回の調査結果と比較して、その変容を把握すること。
- ③ 今後の指導に役立てる指導例を示すこと。

(2) 研究の概要

- ① 検査問題 教研式・全国標準診断的学力検査・N R T
内容は、小学校5年、中学校2年のものであり、前回の調査と同じである。
- ② 実施時期 平成9年4月～7月
- ③ 実施学年 小学校6年生 国語、算数
及び教科 中学校3年生 国語、数学、英語
- ④ サンプル数 抽出数の信頼度を95%以上に設定し、
1教科1500以上とした。

(3) 研究の成果

小学校、中学校における各教科の学力到達度は、全国のそれと比べると十分であるとは言えないが、小学校の国語は全国水準に達した。また、本県の7年度の学力到達度と9年度のそれを比較すると、すべての教科において到達度が上昇している。さらに、今回の到達状況や前回との比較から、各教科の課題がより具体的に把握できた。その課題解決に向けて、学力向上に関するこれまでの研究結果等も踏まえながら、指導例を示すことができた。次年度は、指導例について実践研究する予定である。

3 基礎学力向上のための授業改善に関する実践的研究

—思考活動を活発にする支援について—

科学技術教育部

(1) 研究の趣旨

児童生徒の思考活動を活発にする方策を授業に盛り込み、自分から進んで考えて課題を解決していく活動を通して、知識・理解、技能を確かなものとする実践研究を理科と技術・家庭で行った。

(2) 研究の概要

- ① 思考活動のとらえ方
実践では科学的思考に焦点を当て、科学的な思考活動を、当面の課題を解決し、事象への理解を深めるための活動と考え、事実関係の把握、相互関係の把握、因果関係の把握、総合関係の把握という、事象認識の段階の視点からとらえた。
- ② 施行活動を活発にする方策を盛り込んだ授業の実践
授業が、児童生徒にとって問題解決的な学習になることを基本にした。授業の展開に当たっては、事象(教材)の提示、体験的活動、自己表現活動、ゆとり、問題解決の満足感の各点を重視した具体的方策を講じた。
- ③ 思考活動と基礎学力
科学的な思考ができたかについては、学習した事象の、事実、相互、因果などの関係の理解の程度を問うテスト問題で判断した。また、思考活動の活発さについては、児童生徒の自己評価によって把握した。他にいくつかの調査を行って、思考活動を活発にする方策が、知識・理解、技能の獲得にどのような効果があるかを調べた。

(3) 研究の成果

- ① 考えようとする意欲は導入時における事象や教材の提示の仕方と関わりが深いことがわかった。
- ② 書く、話す、作るなどの自己表現活動や体験的活動を取り入れると思考活動が活発になることがわかった。
- ③ 思考活動を活発にするためには、個に応じた支援が必要であることがわかった。
- ④ 児童生徒の思考活動を活発にすることは、知識・理解、技能の獲得に効果があることがわかった。

4 情報ネットワークの教育的活用と授業改善へ向けた教育用ソフトウェアの活用研究

情報教育部

教育情報の有効な活用を図るために、各学校における教育活動や教職員の研究・研修等支援及び教育関係機関との連携、多岐にわたる教育用データベースの構築と利用・活用について研究する。

ここ数年、社会へのインターネット普及は進み、学校教育への普及も進んでいる。インターネットの学校での利用・活用については異論のないところだが、多くの問題点や課題を含んでいる。平成9年4月、コンピュータ設備の更新を行い、ウィンドウズとネットワーク環境が整備された。このような中で、所内ネットワーク(イントラネット)を利用した情報ネットワークの研究を行うことが可能となり、今年度は「教育情報ネットワークシステムの教育的活用」のテーマで研究することにした。この研究は、ネットワークを利用することによって、個々のコンピュータの持つ有用な情報の共有と、学校やその他教育機関との連携及び授業改善に結び付ける教育的な活用方法等を研究するものである。

また、教育用ソフトウェア開発は3年目を迎えた。年毎にSE(情報処理技術者)との共同開発にも慣れ、その成果を上げてきた。今年度は複数のセンター所員とSEとで、マルチメディア対応の進路学習を支援するソフトウェアを開発した。このソフトウェアは、学級活動における進路指導の在り方を見直すことを目的として、「生きる力」の育成に関わる進路の学習が、生徒主体で行われるように、コンピュータを活用して授業改善を図るねらいで作成された。なお、開発したソフトウェアを使用し、授業改善に向けた検証授業を実施した。さらに、ソフトウェアライブラリセンターに自作ソフトウェア集の一つとして登録した。

今後もインターネット等を活用して授業改善を図るための研究を行い、教育情報ネットワークシステムの実現と適切な運用を図るための研究を行いたい。

5 豊かな人間関係を育む指導援助に関する研究(第1年次)

—人間関係をつくる力の育成を通して—

教育相談部

最近の児童生徒の中には、友人関係において、かかわり合う楽しさが実感できなかつたり、自分の気持ちや考えをうまく表現できなかつたりして、人間関係で悩んでいる者が少な